

## 📷 東日本大震災から14年



📍 市内各所

📅 3/11(火)



### ＼ 東日本大震災追悼行事 ／

3月11日、市内各所にて追悼行事が行われました。あの日から14年が経ち、忘れてはいけない思いを胸に、黙とうを捧げました。震災を経験していない子どもたちが増えていくなか、これからも記憶と教訓を伝え、防災への意識を高めていきましょう。

## 📷 いわき応援大使に任命



📍 いわきワシントンホテル椿山荘

📅 2/22(土)



### ＼ 野口さん、柏原さんを応援大使へ ／

本市のPRやアドバイスなどを目的とする「いわき応援大使」。

この度、いわきサンシャインマラソンのゲストランナーとして参加された、野口みずきさん（アテネ五輪女子マラソン金メダル）、柏原竜二さん（本市出身）に、いわき応援大使の委嘱状を交付しました。

## 写真が語る「いわき」の歴史



### 川開きの花火大会

江戸時代の三代將軍・徳川家光の時代に大川（隅田川）の川端で始まった花火大会は火事の原因となり、また砲声と紛らわしいことから中断されましたが、8代將軍・徳川吉宗の治世下の享保18（1733）年、前年に冷夏と長雨、害虫の大発生で大凶作となり、加えてコレラが蔓延したため、川開きの際に、これら死者の霊を慰め、災厄を祓うことを目的に花火が打ち上げられました。

このような経緯から、花火大会は厄払いを念頭にした川開きとして、地方に伝播していきました。

では、いわき

地方で最初に本格的な花火大会が開催されたのは、いつだったのでしょうか。新聞記事などを追った限りでは、花火の打ち上げだけを目的とした川開き形



■写真 「さめ川花火大会」 写真下部に見えるのは、鮫川大橋。川面に花火が映る。〔平成22（2010）年7月 緑川貴之氏撮影〕

式では、大正時代末期に始まった鮫川の花火大会、あるいは夏井川流灯会と考えられます。

このうち、鮫川の花火大会は戦争中・戦後まもなくの中断、さらには昭和35年からの長いブランクを経て平成8（1996）年7月に復活しました。

昭和30年代の中断が、花火大会を財源捻出と費用対効果の観点しかみていなかったことの反省に立ち、まちづくりに資するよう、広く薄く地域住民から集めることで、安定的な財源確保を図り、継続できるようにシステム化したものでした。

（いわき地域学會 小宅幸一）